

舊西端藩藩債之備元治元子年舊幕府ニ於テ藩屏列ニ申付候月以來新規藩用之借口ノミ公債ニ相立候條爲心得相違候也

從五位 兵 田 忠 綱

舊實我野藩藩債之備慶應二寅年舊幕府ニ於テ藩屏列以下前同文

諸 省

○六月二十五日 (正院) 各省ヨリ連月改差出シ候職員録中本省出仕ノ輩其所屬ノ寮司ノ部ニ錯雜致シ候向モ往々有之本人御達シ面ニ相反シ不都合ノ事ニ候條右様相違有之分ハ本省出仕ト寮司ノ出仕ト地位判然區別相立早々改正可差出候也

○六月二十八日 (正院)

新紙幣ノ内十圓五圓二圓ノ三種製造出來當六月廿五日ヨリ發行相成候條三種見本相添此段相違候也(見本略ス)

○七月九日 (沙)

東 京 府

府下煉化石家屋建築工事ノ儀其府ニ於テ取扱候處自今大藏省引受ニ被 仰付候條此旨相心得府下人民ヘモ可及布達候事

○七月九日 (沙)

大 藏 省

府下煉化石家屋建築工事ノ儀東京府ニ於テ取扱候處自今其省引受ニ被 仰付候事

○七月二十日 (正院)

諸 省

從來諸省ヨリ跡拂貸錢ヲ以差出候用狀等驛遞寮ニ於テ仕拂來候得共右ハ其省局ノ費用ニ可相立儀ニ付自今同寮ヨリ跡拂貸錢證書差越候ハ、員數ノ通直ニ可相迴候事

東 京 府

十三年第五號布告  
ヲ以テ十圓五圓ヲ  
改造ス

九月大藏省中土木  
寮ニ管シ七年一月  
九日太政官選ヲ以  
テ土木寮事務ヲ内  
務省ニ屬シ同月二  
十二日同選ヲ以テ  
土木寮中寫字事務  
ヲ工部省ニ屬ス

第二百三號奏

六年十二月二十五  
日太政官選ニ依リ  
消滅

八月十二日選ヲ以  
テ七月七日改メ  
六年六月十日太政  
官選ヲ以テ各選退  
出時限ヲ定ム

七年太政官第十四  
號選八年司法官選  
第十號選ニ依リ消  
滅

赤阪離宮御近火之節消防ノ手當兼テ可定置候此段相違候事

○七月二十日 (沙)

大 阪 府

今般其府開港場税關之事務出張租稅寮ヘ引渡候ニ付テハ以後外務之事件ハ府廳ニ於テ取扱外務局  
建築ノ儀ハ早々同寮ヘ引渡可申候也

○七月二十九日 (正院)

左院各省開拓使長官次官

來ル八月ヨリ毎月六ノ日第二字延邊館ヘ參集可有之候也

諸 省

○七月晦日 (正院)

○八月二日 (吏務局選)

今般定額金相定候ニ付テハ筆紙墨其他諸品共現今入用高凡見込取調來ル五日迄ニ用度局ヘ差廻可  
申此段相違候也

○八月三日

司 法 省

本省職制並ニ事務章程御渡相成候事  
但假定之心得ヲ以テ施行可致事

司法職務定制目次

第一章 綱 領

第二章 本省職制

第三章 本省章程

第四章 本章分課

第五章 判事職制附斷刑課

明治五十年八月 大政官 (無償) (司法職務定制)

第六章 檢事職制

第七章 檢事章程

第八章 地方選卒兼選部職制

第九章 捕亡章程

第十章 證書人代書人代言人職制

第十一章 司法省臨時裁判所章程

第十二章 司法省裁判所章程

第十三章 司法省裁判所分課

第十四章 出張裁判所章程

第十五章 府縣裁判所章程

第十六章 府縣裁判所分課

第十七章 各區裁判所章程

第十八章 各區裁判所分課

第十九章 明法寮職制

第二十章 明法寮章程

第二十一章 司法省及司法省裁判所處務順序

第二十二章 監倉規則

司法職務定制

第一章

第一條 省中官ヲ分チ事務ヲ辦理ス官ニ職制アリ務ニ章程アリ課目アリ以テ統紀ヲ明ニシ諸官ヲ

シテ遵守スルコト有シム凡各務懈怠スルコトヲ得ズ各課權限アリテ互ニ相干犯スルコトヲ得ズ從前規

條此レト相矛盾スル者沿留スルコトヲ得ズ簿書定册アリテ丞卷首ニ押印シ之ヲ合併シ或ハ更ニ設

第二條 司法省ハ全國法憲ヲ司リ各裁判所ヲ統括ス

第三條 省務支分スル者ニトス

裁判所

檢事局

第四條 裁判所分テ五トス

司法省臨時裁判所

司法省裁判所

出張裁判所

府縣裁判所

各區裁判所

第二章 本省職制

第五條

卿

第一 本省及寮局各裁判所一切ノ事務ヲ總判シ諸官員ヲシテ各々其職ヲ盡サシム

第二 新法ノ草案各裁判所建設ノ便宜疑難ノ審定重要ナル罪犯ノ論決ヲ總提ス

第三 事務章程ニ照シ制可ヲ請フノ條ハ之ヲ上奏シ其專任ヲ得ルノ條ハ便宜處分スルノ權ヲ有



第四十一條

證書人

第一 各區戶長役所ニ於テ證書人ヲ置キ田畑家屋等不動産ノ賣買貸借及生存中所持物ヲ人ニ贈與スル約定書ニ與印セシム

第二 證書與印手數ノ爲ニ共世話料ヲ出サシム

第四十二條

代書人

第一 各區代書人ヲ置キ各人民ノ訴狀ヲ調成シテ其詞訟ノ遺漏無カラシム

但シ代書人ヲ用フルト用ヒサルトハ其本人ノ情願ニ任ス

第二 訴狀ヲ調成スルヲ乞フ者ハ其世話料ヲ出サシム

第四十三條

代言人

第一 各區代言人ヲ置キ自ラ訴フル能ハサル者ノ爲ニ之ニ代リ其訴ノ事情ヲ陳述シテ枉冤無カラシム

但シ代言人ヲ用フルト用ヒサルトハ其本人ノ情願ニ任ス

第二 代言人ヲ用フル者ハ其世話料ヲ出サシム

證書人代書人代言人世話料ノ數目ハ後日ヲ待テ商量スヘシ

第十一章 司法省臨時裁判所章程

臨時之ヲ開ク其章程左ノ如シ

第四十四條 凡國家ノ大事ニ關スル事件及裁判官ノ犯罪ヲ審理ス

六年十二月十四日  
大政官達ヲ以テ改  
正

第四十五條 平常官員ヲ設ケス臨時判事ヲ以テ之ニ充ツ

第十二章 司法省裁判所章程

各裁判所ノ上ニ位スルヲ司法省裁判所トス其章程左ノ如シ

第四十六條 別ニ所長ヲ置カス司法卿之ヲ兼掌ス

第四十七條 府縣裁判所ノ裁判ニ服セシテ上告スル者ヲ覆審處分ス

第四十八條 各府縣ノ難獄及訴訟ノ決シ難キ者ヲ斷決ス

第四十九條 勅奏官及華族ノ犯罪アレハ卿ノ命ヲ受ケ鞫問ス及罪ニ因テ位記ヲ奪フヘキ者ハ本省ヲ經テ奏請ス

第五十條 律條ニ比照シ擬定シ難キノ疑獄及死罪ハ本省ニ伺ヒ出ヘシ

但シ事情同クシテ情趣異ナル者モ亦疑獄トス

第十三章 司法省裁判所分課

司法省裁判所ノ事務ヲ分テ二課トス

第五十一條 聽訟課

第一 判事一人課長ニ充ツ課長ハ課務ヲ宰處シ聽訟一切ノ事件ヲ總提シ各件ヲ判事及解部ニ課付ス

第二 管主スル簿書十四部左ノ如シ

聽訟表 聽訟一件帳

裁斷言渡帳 諸受書編冊

濟口證文編冊 保管人名帳

物品預帳 諸伺指令錄

六年十二月十日太  
政官達ヲ以テ取消